

【樹木の部屋】

フクシア（アカバナ科フクシア属 Fuchsia）

和名：フクシア **別名**：ホクシャ、釣浮草（つりうきそう）

英名：lady' s eardrop レディー・イヤドロップス

フトモモ目 常緑低木 **原産地**：南米の熱帯・亜熱帯

花言葉：暖かい心 **花の色**：白、赤、桃、橙、紫、複色

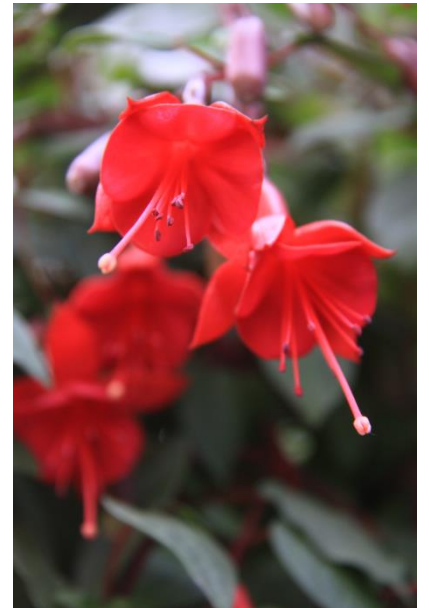


← **写真-1** フクシア

撮影日：2013 年 7 月 10 日
撮影場所：ポントレジーナ
（スイス）にて
撮影者：M さん

→ **写真-2** フクシアの花(赤)

撮影日：2013 年 7 月 12 日
撮影場所：グアルダ村
（スイス）にて
撮影者：M さん



← **写真-3** フクシアの花

撮影日：2013 年 7 月 10 日
撮影場所：ポントレジーナ(スイス)にて
撮影者：M さん



写真 1、2 は宿泊ホテルの入口に、鉢植えで……。写真 3 は民家の窓辺にプランターに植えられていました。

フクシアはアカバナ科フクシア属の落葉中低木の総称。花はまるでイヤリングのように下向きに下垂して咲き、萼は細長く、基部が筒状で先端が四つに分かれて着色。花弁のようにみえます。花弁は幅広く 4 枚。色は、萼の色とは必ずしも同じではなく、萼は赤でも花弁は赤紫や白の二色の花に見えるものも……。葉は小

さめの楕円形で濃緑。花期は春から夏で、花色は紫・紅・白色などがある。果実は1cm前後の液果で暗赤色に熟し、細かい種子を多数含み、食べられるそうです。花形は一重咲きから八重咲きまであり、花の大きさは1cmにも満たない小輪から8cmを超える大輪までと多種多様。野生種のトリフィラをもとに交雑された品種の花は、萼の筒状部が長く、中から花卉がわずかにのぞく朱赤色で一重の花が特徴です。

亜熱帯性気候地域原産ですが、高冷地や湿った薄暗い森、峡谷などに自生するため、涼しくて湿り気のある環境を好みます。それらをもとに主にヨーロッパで園芸品種が育成されたため、日本では、過酷な夏、特に熱帯夜が苦手な、夏越しの難しい植物です。が、日本で作出された‘エンジェルス・エアリング’は耐暑性に優れているそうです。一般に、一重で小輪の品種は、八重で大輪の品種よりも暑さに強い傾向があるそうです。

夏は、なるべく涼しい環境を作り、冬は室内の明るい環境（日中 18～25℃・夜 13～15℃）で栽培すると一年中切れ目無く満開が続くそうです。

フクシアは英語圏では『フューシア』と呼ばれ、下向きに咲く上品な花姿から、貴婦人のイヤリングと呼ばれることもあります。

フクシアの品種名の国際登録は、ISHS（International Society for Horticultural Science、国際園芸学会）の委託の下で AFS（アメリカフクシア協会）が行っているそうです。

ただし、世界中のすべての品種が AFS に登録されているわけではなく、古い品種は AFS の登録番号を持っていないそうです。エンジェルス・エアリングのような新しい品種についても未登録の品種があるとか……。世界中の交配種の数は 12,000～15,000 におよぶとも言われ、品種を特定することは非常に難しいそうです。